

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2015年12月28日～2016年1月3日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年1月11日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼アブハジア・トルコ経済関係(29日)

・スルコフ露大統領補佐官がアブハジアを訪問し、ハジンバ「アブハジア共和国大統領」らと会談。「ス」露大統領補佐官は、「トルコ企業がロシアの支援するアブハジアでのインフラ建設に参加できないことは明らかである」「漁業や天然資源へのアクセスなどについては個別に考慮する」などとして、アブハジア・トルコ経済関係について議論したと述べた。

・ハジンバ「大統領」は、2014年に署名された「同盟と戦略的パートナーシップに関する協定」のなかでロシアとアブハジアが「協調的な」外交政策を実施すると規定されていることに言及した。

・アブハジアの外国貿易において、トルコとの貿易は2割ほどを占めると見られる。アブハジアはトルコから建設資材、食料品、繊維製品などを輸入し、トルコに石炭、魚介類、金属スクラップなどを輸出している。

【南オセチア】

▼行政境界線の閉鎖(31日—1月1日)

・南オセチア「政府」は、12月31日から1月1日にかけて行政境界線上の全ての通過点を閉鎖。

2. 内政

▼大統領がウグラヴァ前トビリシ市長の恩赦を拒否(29日)

・28日、著名な音楽家、作家、映画監督、ジャーナリストらを含む60名が、ウグラヴァ前トビリシ市長の恩赦についての嘆願書をマルグヴェラシヴィリ大統領に提出。

・29日、「マ」大統領は恩赦を拒否する声明を発表した。

▼新首相の承認(30日)

・29日、クヴィリカシヴィリ首相候補を筆頭とする新内閣の承認にかかるジョージア国会本会議が行なわれた。長時間の審議の後、30日未明に採決が行われ、賛成86名、反対28名で新内閣が承認された。野党の統一国民運動および自由民主主義者党は反対票を投じた。

・30日、大統領が「ク」首相を任命する大統領令に署名。

・ジャーネリゼ新外相以外の全ての閣僚は留任。カラゼ・エネルギー相の他に、クムシシヴィリ経済・持続的発展相が新たに副首相となった。

・審議のなかで、「ク」首相候補は、2016年の国会選挙の

重要性を強調しつつ、「社会における政治的な対立や二極化を終わらせることを望んでいる。野党との建設的な協力を行なう用意がある」と述べた。また、新政府の優先課題の一つに経済発展および起業の促進を挙げた。外交については、EU・NATOとの統合を目標とすることが最も重要であることは変わらないとして、「ロシアに対する実際的なアプローチは、ジョージアのEU・NATO加盟の追求にともなうリスクを軽減するものである」と述べた。

▼イヴァニシヴィリ元首相の発言(30日)

・イヴァニシヴィリ元首相はTVのインタビューで、2016年の国会選挙での与党連合の比例代表名簿の作成には自身が積極的に関わり、新たな人材を投入したいと述べた。

・与党連合の崩壊を予想する理由はないとしつつ、一部のメンバーが与党連合を離れたとしても、それは重大なことではないと発言。

・クヴィリカシヴィリ新首相を「バランスのとれた人物である」と評し、優れた首相になるだろうとコメント。

・ガリバシヴィリ前首相と辞任前に何度か相談を重ねたと認めつつ、辞任は「ガ」前首相自身の決断であったと述べた。

▼大統領、首相の新年のメッセージ(1月1日)

・マルグヴェラシヴィリ大統領は新年のコンサートが行なわれていたトビリシ市中心部の自由広場から国民に向けた新年の挨拶を行なった。2016年が独立ジョージアの復活から25年目に当たるとして、「我々は独立を自由に変えていかねばならない」と述べた。

・クヴィリカシヴィリ首相もTVを通じて国民に向けた新年の挨拶を行ない、欧州との統合や経済発展について述べた。国際的ミッションに参加しているジョージア軍兵士や被占領地域の住民にも呼びかけた。

3. 経済

▼2015年11月のGDP成長率(30日)

・国家統計局が速報値を発表。2015年11月の実質GDP成長率は前年同期比5.3%。2015年1月～11月の実質GDP成長率の平均は前年同期比3.0%。

▼2015年の入国者数(1月2日)

・内務省の発表によれば、2015年の入国者数は5,897,685人(前年比6.9%増)。入国元別ではアルメニア146万人(同10.7%増)、アゼルバイジャン139.2万人(同8.5%増)、トルコ139.1万人(同3.5%減)、ロシア92.5万人(同14%増)、ウクライナ14.2万人(同1.3%減)。EU諸国からの入国者数は24.1万人(同4%増)。